19









Plastering and Drywall Systems
左官

スピーディーかつシステマチックな下地制作と石膏の造形美と塗り壁の精巧さを魅せる

金鏝（かなごて）と木鏝（きごて）などを駆使して壁の表面をデザインする左官技能者。その歴史は古く、飛鳥時代まで遡ります。近年、土壁を施した家屋は少なくなりましたが、天然素材の塗り壁は断熱性や保温性、防火性などの優れた機能を持つことから安心、安全、健康な素材として再び注目を集めています。競技では、墨出し作業に始まり、WorldSkills Competition Plastering and Drywall Systemsにも採用されている軽量鉄骨に石膏ボードを取り付けて下地を制作します。石膏置き引き作業を経て出来上がったモールディングを切断加工して取付けます。さらにコーナー定木を取り付けた後に、厚塗り、薄塗り仕上げを施し、さらには、欧州仕様のパテしごきを行い、最後に自然素材を使用した自由課題で感性を表現します。事前に公表された課題図面に基づき、軽量鉄骨組立ておよび石膏ボード張りの正確な下地施工と石膏の造形美および鏝塗りの技能、仕上がりの美しさ、精度の正確さなどを競います。



＜2025年大会 金賞作品＞

競技職種と生活との関わり

左官とは、湿式仕上工事の中で、建物の壁や床、天井などを、こてを用いて塗り上げる技能者です。左官は、ほぼあらゆる建築現場で活躍しています。現場での主な仕事は、こてを使って壁に材料を塗り込むことですが、その工程は非常に多く高度な技術が必要で、下地の養生、材料の調合、下塗り、中塗り、仕上げ塗りを経て、ようやく完了します。また、近年では、欧州に良く見られる建築物の内外装工事一式を仕上げる左官技能者も増えています。左官は、時代の要請に応えて、軽量鉄骨骨組み制作の上に各種ボード張りとパテしごき等の乾式仕上工事を行うことも期待されています。乾式仕上工事を良く知っているから、各種の下地に対応した湿式仕上工事を行うことができます。新築はもちろん、リニューアルでの出番も多いものです。昨今、改修工事の需要は増えており、左官のニーズも堅調です。

日本伝統の湿式仕上げと欧州の乾式仕上げを融合させた課題に無駄のない俊敏な動きで挑む

置き引き作業は焼石膏の性質を熟知した上で、いかに効率よく丁寧な作業ができるかがポイントです。作業台に水で溶いた焼石膏を流し、どのタイミングで型を通すか、瞬時の判断で造形品の良否が決まります。無駄なく素早い動きで指定寸法に合わせて切断、加工したものを取り付けたモールディングの接合部の見ばえが求められます。日本の風土に適した自然素材「漆喰」や「珪藻土」の鏝塗りの技を必要とする今年の課題は、多能工としてもより実践的な構成となっています。これらの仕上げ施工を行うための下地は、骨格部分を軽量鉄骨と石膏ボードで制作し、ジョイントやビス穴はパテと鏝およびヘラ等を使用して平滑に仕上げます。下地を良く知っている左官技能者は、工事現場において内外装施工のプロフェッショナルとして活躍することが可能になります。



三原 斉 主査　ものつくり大学

前回大会金メダリストからメッセージ！

［所属：東京都左官組合連合会］

木村 宥紀 さん

「左官」は、すごく繊細でもあって、体力も使って大変な仕事だと思いますが、芸術性もあっていい仕事です。ぜひ、チャレンジしてください!!



前回大会金メダリストインタビュー!